

気楽！ 気楽に選んでいってください

語り手 西澤優衣(高校十期生 IT業界)

聞き手 吉田理沙子

中学時代の思い出

じゃあ、中学から話すんですけど、中学に入学して、部活は絶対入らなかんかって、バレエが週五とかであつたから、部活にほぼ参加できひんくて、今はまだあるかわからないんですけど、日本文化研究部っていう、茶道とかの部活に入つたつてのが、一番最初の部活。

ー日文、今もあります。

今もあるんですね。すごい緩かつたんで、休んでも全然いいし、参加も自由で、お菓子食べに行つてみたいな感じで、中学はすごく緩くやつてました。中二にバレエやめたんで、そこから普通に部活できるようになつたんですけど、文化祭のときに、ブースみたいなんで、お茶を出すみたいなことをやつてました。浴衣着て、浴衣の着付けも、外部の先生が来て教えてくれるみたいなの。で、浴衣着て、文化祭の日は、シフト制でお茶出す係とかやつてました。あとは、中学は実はあんま記憶がなくて、合唱コンとかありましたよね。あれもあつて、三年のときはめっちゃ必死で練習した記憶あります。懐かしい。結果どやったかは全然覚えてないんですけど(笑)。中三は文化祭実行委員長で、後夜祭つて今もあります？

ーあります。

あれで結果発表するじゃないですか、あれがやりたくて(笑)。それがやりたかったから立候補してやりました。

ーそれがやりたかつたんですね(笑)。ちゃんとできました(笑)？

できました(笑)。最初に結果、インカムで知るんですよ。で、何年何組が何位でつていうのを一番に知りました。

ー中三の文化祭つて何されたんですか？

中三は、高校生つて市民ホールで劇するじゃないですか。そのときは、ステージでお昼にやる、中庭のステージでやるって感じでした。多分そこは今も一緒ですよ。

ー一緒ですね。そのステージでは何されたんですか？

ユニバの、ウォーターワールドをやりました。水鉄砲をわーって

(笑)。

ーえー楽しそう！

体育祭とかは全然覚えてないかも、何やったか。中学で覚えてるのはそれくらいですね。あとは、中一か中二のときに田植えをした記憶はあります。

ーえっ、そうなんですか！

なかつたですか？

ーなかつたです。それ覚えてるんですね(笑)。

めっちゃ覚えてて、なんで覚えてるかっていうのが、高校に上がるための面接するときに、立命館守山に入つて何したいのかみたいな事を聞かれて、ニュージーランドでのホームステイがあつたんでまずそれを言つたんですけど、他には？つて聞かれて、めっちゃ焦つて、パンフレットに田植えの写真があつたから、田植えが…みたいな話をしました。そのせいでめっちゃ覚えてますね(笑)。

ー(笑)。面接官の方からしたら珍しい子が来たなって感じですね(笑)。そうですね(笑)。ニュージーランドのホームステイはすごい良かった

です。クラスごとに、ニュージーランドの中で行く地域が違って、めっちゃ田舎に行くクラスもあれば、めっちゃ都会の方に行くクラスもあって、私のクラスはめっちゃ田舎でした。田舎の方がニュージーランドっぽくて、私の家は羊買ってたんですよ。ペットで羊飼ってた。

―ペットで羊なんすごいですね。ニュージーランドですね。
そうですね。めっちゃ良かったです。

当時の高校生活と厳しかった校則

―高校上がるときは、なぜGL選んだんですか？

高校上がるときは決めんでよくて、高三とかにどうするかを決めるみたいな。多分、私のときはGLコースってのがなくて、高一高二は文系理系だけ分かれてて、で三年になるタイミングで、グローバルコースができたんですよ。で、高二のときに、シアトルとかフロリダとか、自分が行きたいところを選んで二週間行くっていうのがあって。私シアトルに行っただけですけど、すごい楽しかったから、もつと英語を伸ばしたいなっていう理由で、グローバルコースに行きました。

―高二のときのシアトルでは、どんなことをされたんですか？

シアトルはホームステイやったんで、二週間ホームステイをしたんですけど、あとは、インターンシップみたいな。企業に英語でプレゼンしていくみたいな。シアトルってスタバの本社があって、スタバの本社に行って、新しいメニューを提案させてもらうっていうことをしました。スタバの本社に入れることってなかなかないじゃないですか。めっちゃ良かったです。

―ホームステイってちょっと怖い印象があるんですよ。知らん人の家に泊まるから。それは全然大丈夫やったんですか？

私のときは全然大丈夫で、ちゃんと学校が選んでくれるから。あんまり当たり外れもなく、ちゃんと一部屋もらって、お風呂も好きな時に入っていいよって感じで、ご飯もちゃんと出してくれる。たまに、ちょっとハズレなところを引いちゃった子とかは、夜ご飯全然出てこないとか、はあります。けど、学校なんで、言ったら全然変えてくれるから、よっぽどのことがない限りは大丈夫。最初はストレス感じるけど、一人部屋なんで、私のホストファミリーには五歳の子供がいたんですけど、その子たちと遊んでる時以外は自分の部屋いていいよみたいな、ホテルとそんな変わらへん。

―そうなんですね。英語は結構伸びましたか？

ホームステイは、あんまり伸びたなっていう感覚はなくて、適当でも案外いけるってことを学んで帰ってきたんですけど、大学でした留学は流石に十ヶ月やったんで、だいぶ伸びましたね。今はもう忘れちゃったけど。

―忘れちゃったんですか(笑)

すぐ忘れちゃいますね(笑)。今の仕事も全然英語関係ない仕事やら、ちゃんと英語勉強しないと忘れそうですね(笑)。けど、リスニングは特に伸びましたね。

*

ところで、体育祭って今は何月なんですか？

―五月ですね。

そこは変わってないんか。(最近は校則が緩くなったというお話もありましたが、)メイクとかもオッケーになったなら、みんな派手にやってるんですか？

―ばちばちですね(笑)。

へえー。写真とかありますか？

—ありますよ！

(お互い写真を探す)

—(写真を見せながら) これ、クラスで打ち上げ行ったときのですよ。

わーすごい、イマドキや！

—みんな髪の毛バチバチにしたりとか、いろいろ作ったりとか。

この青く光ってるのはライトですか？

—そうです。

うわー、めっちゃギャルや。すごい、可愛い。Tシャツもおシャレですね。

—Tシャツも、最近自分たちで落書きしたりデコったりするのがめっちゃ流行ってるんですよ。

えーすごい。これって、Tシャツの色は団の色にしくなくても良くなったんですか。

—これ団の色です。団の色も選べるようになったんですよ。

ええ(笑)！ それは、赤、青、黄、緑とかではなくて。

—十個くらい色の選択肢があって、そこから投票みたいな感じです。

ええ、すごー！ (写真を見せながら) 私ときは、これ黄色団なんですけど、団全体黄色で、めっちゃ真面目じゃないですか？ (笑)

—えー！ 着飾りも何もないですね。

メイクもなしで、前髪も巻いたあかん。厳しかったです。やから、いい時代になりましたね。打ち上げもあかんかったかな。行った記憶はないですね。私ときは、体育祭の団の色が、赤黄緑青で、抽選で、Tシャツも絶対原色で、前はデザインなしで、後ろだけデザインありって感じでした。めっちゃ地味でした(笑)。時代は変わりますね(笑)。立守が

そんな変わると思ってたんですけどね。私ときは、確か自毛申請っていうのをしなきゃいけなくて、地毛が茶色い子とか、天然パーマの子とかは、自毛ですよっていう証明書を学校に出さなきゃいけなくて。そんなに厳しかったんですよ。

—えー、大変ですね。

じゃあスカートの長さとかも大丈夫なんですか？

—全然大丈夫ですね。

ええ！ 私ときはダメやったんで、生徒指導の先生とか、スカート折ってるかめっちゃわかる先生とか、折ってるやろ、切ってるやろ、とかめっちゃ言っていました。

留学したい思いから国際関係学部へ

—国関(国際関係学部)はなんで行かれたんですか？

元々留学がしたくて。中三でニュージールランドにホームステイして、高二ではシアトルに行って、すごい楽しかったから、大学でも留学したいなって思って、国関が一番留学が多いなって、英語も好きやったからって感じです(笑)。

—えー、英語かっこいいですね！

全然全然(笑)。

—大学での留学はどこに行かれたんですか？

大学は、カナダに行ってたんですけど、ちょうどコロナが始まったくらいの時期やったんで、一ヶ月くらい短くなって、強制帰国みたいな感じで帰らされて。実質十ヶ月くらい行っていました。すごい楽しかったです。

—それって行ってる間は、学校とか通うんですか？

学校は、現地の大学に行くんですけど、急に現地の授業に入るとかではなくて、立命館の人のプログラムみたいなんで、そっちの大学で組んでくれるから、英語の授業とか、あとは自分が好きな授業を選んでとか。休みの日とかは、旅行行ったりとか、日本人の友達とカフェ行ったりとか。バンクバーに行ってたんですけど、位置的には、（手を使いながら）バンクバーがあつて、寮があつて、都会の方で、ちょっと行ったらめっちゃ自然みたいなどこやったんで、たまにちよつと乗り越えてすごい自然を感じに行ってみましたね。あとはまあ、留学中も冬休みとかは、みんなニューヨーク行ったりとか、トロント行ったりとか、私はカルフォルニア行ってたんですけど、アメリカの。

—うわー、めっちゃいいですね。留学って、憧れるけど難しいイメージがあるんですけどどうなんですか？

別に、英語好きやったんですけど、全然喋れない状態で行ったんですけど、案外なんとかなって（笑）。

—なんとかなるんですね（笑）。通じひんとかないんですか？

通じひんは、ありますね。でも、私は寮に入って、六人部屋やったんですけど、みんな優しく、わからへんとかは、めっちゃゆつくり喋ってくれたりとか、翻訳機にかけて喋ったりとか。人が良ければ大丈夫です。結局留学行つて、今は全然英語関係ない仕事に就いてるんですけど、経験としては、すごい良かったなと思ってます。

—何か大変やったこととか、困ったことありますか？

そうですね。授業とかは全部英語やったから、最初はまじでわからへなくて。けど、それよりも、六人の外国人のルームメイトで、ヨーロッパの人が三人と、アジアが三人で、ヨーロッパの人って、あんま掃除とかしない感じなんです。ゴミとかめっちゃほったらかしだったり

（笑）。それを言うのが大変でした。向こうは悪気ないので。言ったら、ごめん、みたいな感じなんですけど、習慣がないから、日本人って結構昔から多分親に怒られきたとかあるけど、そういうのがないから。

—文化の違いですね。いろんな国籍の人が集まる感じの学校だったんですか？

そうですね。私のルームメイトは、たまたますごいみんな真面目でいい子やったんですけど、友達はいンド人がルームメイトで、毎日カレー作るから、部屋ずっとカレーの匂いするっていう（笑）。それは大変そうでした。あとは、パーティーが好きな人が多くて外国の人は、私のルームメイトはそんなことなかったんですけど、すごい陽キャな外国人と一緒に友達とかは、毎晩夜中までパーティーするから、うるさくて大変やったとかは聞きましたね（笑）。

帰国から社会人としての歩み

コロナが始まっちゃったから、一ヶ月くらい早く帰国して、授業が対面じゃなくて全部オンライン授業になって、ほぼほぼ学校行つてなかった。全部オンラインで、やから大学三回の最初の方はずっとオンラインでした。四回になって、対面授業が再開して、最後やからめっちゃ遊んでましたね（笑）。

で卒業して、社会人なって、最初、人材業界、転職サイトみたいな会社に入つて。私英語で入ったんですけど、新規のお客さんに電話したりとかを最初にやって。契約してくれたお客さんに対して、転職サイトの応募人数を増やすにはこうしたらいいですよ、みたいなアドバイスしたりして。新卒から、二年くらいやってました。

会社の人とかと仲も良かったし楽しかったんですけど、営業が結構し

んどこからやめて、今の会社に転職したって感じで。

—今は具体的にどんなお仕事されてるんですか？

えっと、IT企業なんですけど、エンジニアとかではなくって、経費計算で。例えば、自分で交通費をいくら、一旦立て替えたから返してくださいみたいな、経費精算するときのシステムみたいなものをやってる会社で。その設定のサポートとか、お客さんの相談に乗ったりとか、みたいな仕事をやってる感じです。エンジニアとかみたいなプログラミングとかはできません。

—なんでそのお仕事を選ばれたんですか？

元々いた会社で、先輩が紹介してくれて、その会社を。でも良さそうやし、給料面とかも良かったから、一旦入ろうと思って（笑）。あんま大したことないんですけど（笑）。そんくらいですかね。他に、なんか聞いた方がいいこととかありますか？

—うーんなんやろ。（少し考えてから）進路とか決める上で、大事にしたい方がいいこととかってありますか？

そうですね。私も元々高校生のときとかなんも考えてなかったからないんですけど、そのときに良いと思っただけに行くと良いと思います。それこそ昔は、こういうのがしたいとか色々あったんですけど、今の状況とか考えたらこっちの方がいいかなとか考えて、基本は従って選んできたので、やりたいことがあったらそっちを優先するのがいいと思います。後から考えたら、大学生のときってめっちゃ時間あるので、今社会人になってから、大学生・高校生のときにこれしとけば良かったなってことがたくさんあるので、大学生のときは勉強とか、友達と旅行とか、いっぱい遊んどいた方がいいと思うかな。

—なるほど。ありがとうございます。

他、なんかありますか。全然インタビューとか関係ないことでも、なんでも。

—そうですね。（少し考えて）ほんとに、将来の見通しとかが全然立つてなくて、何すればいいんやろって。

でも、興味があることがあるんやったら、趣味とか独学とかでもいいんで、触つとくと、後が楽やと思います。私も英語が好きやったときにもつとやつとけば良かったなって思うことがあるので、時間があるときに自分の好きなことをやるつてのが、めっちゃいいと思います。

—英語系の会社とかに入ろうとは思わなかったんですか？

思ってたんですけど、別に絶対それじゃなくてもいいかなって思ってたんで。私はとりあえず就職したときに大阪にいたかったんで、大阪にいろる会社で、最初別にどうせあつてかわからへんかなんでもいいやつと思って、とりあえずすんなりいけた会社にポンって入って、それはそれで良かったんですけど、英語が使えへんくても別にええかなって感じで。英語がめっちゃペラペラってわけでもなくて、もつと喋れる人もいっぱいいるので、それならいいかなって。英語を元々やってたし、留学も行ってたから、そういう会社じゃなくて良かったんってすごい聞かれたんですけど。例えば、パソコンを触るのが好きやからエンジニアにならなあかんかって言われたら全然そんなことないし、それを仕事にするのがあんなしつくりこーへんなってなったら、全然違う方向に転換するのもいいと思う。

—なるほど。じゃあそんな全然学部とかに引つ張られなくてもいい感じですよ。

—そうそう。理系から文系に行くことの方が簡単なんで。

—そうなんですね。参考になります。じゃあ、気楽にいますね！



右：語り手 西澤優衣さん
左：聞き手 吉田理沙子

気楽！ 気楽に選んでいってください。
—では、そのくらいですかね。今日はインタビューに応じてくださって、本当にありがとうございました。
いえいえ、こちらこそ。わざわざ大阪まで来てくださって、本当にありがとうございました。

【感想】

先輩の学生時代から社会人に至るまでの歩みを聞く中で、立命館守山中・高校での経験と将来の道筋のつながりを感じるとともに、私自身も多くの学びを得ることができました。特に、進路選択に対する考え方や姿勢は、今後の自分自身の選択や将来を考える上で参考になると考えました。普段はなかなか経験することのできない貴重な機会を、この聞き書き二〇年史を通して得られたことに感謝しています。